
遊戯王 ~ プラネットシリーズと共に ~

朱雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王～プラネットシリーズと共に～

【ISBN】

N4844Z

【作者名】

朱雀

【あらすじ】

引っ越しした友人から貰った謎のカード、The supreme card SUN。ひょんなことから、プラネットシリーズを集めることになった主人公 佐藤達也はどのような運命を迎るのだろうか。処女作で不定期更新ですが、温かい日で見守つてあげて下さい。

プロローグ（前書き）

初投稿で不定期更新ですが、よろしくお願いします。

プロローグ

???? s.i.d.e

「本当に行つちゃうんだな。智則。」

「ああ、できれば卒業までは一緒に居たかったな。達也。」

そろそろ、日が沈みそうな時間に一人の少年は向かい合ひ。

「そうだ、俺が引っ越す前にこのカードをあげようと思つてたんだ。受け取つてくれ。」

「？　ああ。わかつた、じゃあな。また会おうぜ。」

立ち去るひとする親友に手をふりながら、俺はそのカードを見る。

The supremacy SUN

俺の見たことのないカードだ。家に帰ろうとした時、何かの声が聞こえたが俺はそのまま家に帰った。

～～家～～

机の前でまた、貰つたカードをまじまじと見る。イラストは男の顔をした悪魔の後ろに黒い太陽があるような感じだ。このカードを貰

つてから、度々何かの声が聞こえるが何なのだ？

「まあ、考へても仕方ないか。」

・・・・・お前は私を使いこなせるか。・・・・・

「え？」

また、声がきこえた。

・・・・・フフフ、やっと声がきこえたな。・・・・・

「つーだれだ、おまえはー！」

声の主もわからぬまま、自分の頭に響いてくる声に俺は戦慄する。

・・・・・しかし、おまえが私を持ち、プラネットシリーズを集め
るのに適しているかを調べるものが必要だな。・・・・・

何を言つてゐるんだ？ そして、俺の頭に直接響いてくることも気
になる。

・・・・・ああ、デュエルを始めよつ。・・・・・

俺の目の前に、俺が今まで見たことも無かつた黒いデュエルフィー
ルドが広がり、俺が持つていたThe SUNのイラストから悪魔
が消え、田の前に立つていた。

「くつー！」

俺は本能的にデュエルディスクを構え、The SUNの手にもデュエルディスクができていた。

「「決闘！！」

達也 v s サンズ 1 (前書き)

これがなつむコロとのテキニカルです。

・・・・・まずは私のターンからだ。・・・・・

・・・・・ドロー。私はモンスターを一體伏せ、カードを一枚セット。ターンエンドだ。・・・・・

「俺のターン。ドロー。」

SUNのデッキがわからない今、まずは様子見からだりつ。

「俺は、ダーク・グレファーを召喚。そちら、ダーク・グレファーの効果発動。手札の墮天使ゼラートを捨て、デッキから墮天使スペルビアを墓地へ送る。いくぞ、バトル！ ダーク・グレファーでセットモンスターに攻撃！」

ダーク・グレファーがセットモンスターを切りつける。

グレイブ・スクワーマー

・・・・・グレイブ・スクワーマーの効果発動。ダーク・グレファーを破壊する。・・・・・

地面から、グレイブ・スクワーマーが出てきて、ダーク・グレファーを道連れにしていく。正直、気持ちが悪くなる光景だ。

「俺はカードを一枚セットしターンエンド。」

・・・・・まで。エンドフェイズ時に、魔法発動。終焉の焔。黒焔

トークン一体を特殊召喚する。

これは、まずい。黒焔トークンは、闇属性モンスターのアドバンス召喚に使用できる。そして、SUNは闇属性。次のターンにはSUNが出るかもしれない。俺のセットカードでどうにかなるのか？

達也

8000 手札一枚

ダーク・グレファー セットカード一枚

SUN

8000 手札三枚

黒炎トークン一体 セットカード一枚

· · · · 私のターン。ドロー。私は黒焔トークン一体をリリースし、The supremacy SUN、つまり、私を召喚。 · ·
ちつ、やはりきたか。

· · · · バトル。SUNでダーク・グレファーを攻撃。 · · · ·

黒い光線がダーク・グレファーへ発射される。

たしか、さつき見たときSUNの効果は、破壊され墓地へ送られた次のスタンバイフェイズ時に手札を一枚捨て、墓地から特殊召喚だ

つた気がする。ならば、除外すればいいだけだ！

「罠発動！次元幽閉！ＳＵＮをゲームから除外する！」

・・・・・甘いぞ。罠発動。王宮の鉄壁。カードはゲームから除外されなくなる。・・・・・

まずい。ＳＵＮの一番の弱点、除外が封じられてしまった。たしかに、蘇生効果も特殊召喚で奈落の落とし穴などにかかりやすいため、除外対策は必須だろう。そして、ダーク・グレファーが光線に飲み込まれ破壊されてしまった。スペルビアを落とせただけいいとはいえ、モンスターがいなくなってしまった。

・・・・・私は二重召喚を発動。さらに、私はモンスターを一体セットし、ターンエンドだ。・・・・・

二重召喚は一ターンに一度の通常召喚を行うカードだ。あの、セットモンスターは何だろう？　また、グレイブ・スクワーマーのような除去モンスターなら、次のターン、俺は3000のダメージを受けてしまうかもしれない。

「俺のターン。ドロー。」

悪くない。堕天使アスモディウスだ。

「俺は、手札からヘカテリスを捨て、デッキから神の居城 - ヴァルハラを手札に加え、そのまま発動。さらに、神の居城 - ヴァルハラの効果で堕天使アスモディウスを特殊召喚。堕天使アスモディウスの効果を発動し、アテナを墓地へ送る。バトル！堕天使アスモディウスでセットモンスターに攻撃！」

堕天使アスマモディウスの翼がセットモンスターを切り裂く。

ライトロード・ハンター ライコウ

・・・・・ライコウの効果により、神の居城・ヴァルハラを破壊。さらに、自分のデッキの上からカードを三枚墓地におくる。・・・

堕天使アスマモディウスを破壊しなかつたのは、それよりも天使を特殊召喚する神の居城・ヴァルハラを破壊しておくべきだと思ったのだろう。堕天使アスマモディウスはあとで相打ちし、自分だけ復活すればいいし。

「俺はターンエンド。」

達也

6700 手札一枚

堕天使アスマモディウス

セットカード一枚

SUN

8000 手札一枚

SUN 王宮の鉄壁

・・・・・私のターン。ドロー。・・・・・

れる、このターン、どう動く？

達也 vs SUND 1 (後書き)

どうでしたか?

ライフポイント8000のテコホールは長いですね。

達也 v s SUN 2 (前書き)

SUNとのヒュエルの続きです。汎用カード使いすぎですね、すいません。まあ、どう考へても、あるカードの下位互換になるカードは使いませんけど。

・・・・・私は、カードガンナーを召喚し、効果発動。デッキの上から三枚墓地へ送り攻撃力が1900になる。バトルフェイズ。SUNで墮天使アスモディウスに攻撃。・・・・・

SUNの黒い光線と墮天使アスモディウスの翼がぶつかり合い、お互いにフィールドから消える。

SUNはいなくなつたが、地面からSUNの威圧感が感じられる。

「だが、ここで墮天使アスモディウスの効果発動！ アスモトークンとディウストークンを守備表示で特殊召喚する。アスモトークンは効果で破壊されず、ディウストークンは戦闘で破壊されない！」

墮天使アスモディウスのミニチュアのような赤と青のトークンがフィールドに出てきた。

よし、アスモトークンはカードガンナーに破壊されるだろうが、ディウストークンは戦闘破壊されないため、SUNの攻撃をしのげる！

・・・・・ならば、カードガンナーでアスモトークンに攻撃。さらに、魔法发动。ブラックホール。カードガンナーとディウストークンを破壊する。・・・・・

「なんだつて？」

・・・・・カードガンナーが破壊された場合、デッキからカードを一枚ドローする。私はこれでターンエンド。・・・・・

「俺のターン。ドロー。」

・・・・・スタンバイフェイズ時、手札を一枚捨てSUNを特殊召喚する。・・・・・

今引いたカードは死者蘇生。そして、セットカードはリビングデッキの呼び声。勝てる！ 本当は前のターンにも大ダメージを与えることができたのだが、ゴーズが怖かった。ゴーズを出されるとあの状況ではなにもできないからな。案の定、今SUNは最初から持っていたであろうゴーズを捨て、SUNを特殊召喚した。でも、これでもう怖いものはない。

「俺はリビングデッキの呼び声を発動。墓地から、墮天使スペルビアを特殊召喚。さらに墮天使スペルビアの効果発動、墓地から墮天使ゼラートを特殊召喚。墮天使ゼラートの効果発動、手札を一枚捨て、相手

フィールドのモンスター全てを破壊する。」

・・・・・ぐつ・・・・・

「さらに、死者蘇生発動。SUNを自分フィールド上に特殊召喚する。」

禍々しい悪魔が自分の田の前に出てくる。

・・・・・ほう。ここで全てのモンスターでダイレクトアタックすれば、お前の勝ちか。・・・・・

「ああ。これでどうだ？」

黒いフィールドが消え、俺はいつもの机の前に戻っていた。

達也 vs SUN 2(後書き)

いかがでしたか。お気に入り登録して下せつた皆さん、ありがとうございます。

プラネットシリーズとはー? (前書き)

今回はテューハルありません。プラネットシリーズ誰に持たせるか迷います。

プラネットシリーズとは!?

・・・・・ これほどの実力か……。なるほど、いいだろう。

「お前は何が目的なんだ？」

・・・・・私の目的は、世界に散らばってしまった、プラネットシーリーズを全て集めること。・・・・・

「プラネットシリーズ?」

・・・・・ プラネットシリーズは本来この世界には存在しなかつた。しかし、何者かの力によつて新たな12個の異世界が生まれ、その世界達とこの世界がぶつかつたことにより、その世界にあつたプラネットシリーズの一部がこの世界にやつてきてしまつたのだ。まあ、こう言つ私もプラネットシリーズの一枚だがな・・・・・

あれ、
でも

「たしか、太陽つて、惑星じゃないよな？ 恒星だよな？」

・・・・・ 気にするな。おそらく私を作った人がバカだつたか、そ
の世界では太陽は惑星だつたのだろう。・・・・・

バカつて……。しかも、太陽が惑星だったら、その世界は無いじゃんかよ、どうすんだよ……。

・・・・話が変わったな、では、お前はどうあるべきナシトシ

リーズを集めるか？・・・・・

威圧感が増した。『えええええ。

「断つたら？」

・・・・・お前の心の闇を増幅させ、さらば、マインドクラッシュ

する。・・・・・

心の闇つてあれか、アニメでは全編通して語られてるヤツ。何度も
ラスボスになつてるもんない。そして、マインドクラッシュ。これ
は、社長がやられたやつか。うつわ、やっぱ、つか拒否権ないじや
んもうこれ。

「じゃ、じゃあ、何でおれなんだ？」

・・・・・それは、お前がカードの精霊の声を聞ける、数少ない人
物だからだ。現に、お前にこのカードを渡した少年は、私の声が聞
こえなかつただろう？もし、聞こえていたならば、お前にこれほど
までに危険なカードを渡しあしなかつただろう。・・・・・

……危険つていう自覚あつたのかよ。

・・・・・やうやく、お前は私に勝つた。いふるとい、むづひの世界
でプラネットシリーズを集められる人に会う機会はもう無いかもし
れない。だから、私はお前に言つているのだ。・・・・・

「まあ、智則に貰つたカードだし……。引き受けとじて、さうや
つてそのプラネットシリーズを集めるんだ？」

・・・・・デュエルをすればわかる。・・・・・

「どうこう」とだ?」

・・・・・さつき、お前とデュエルした時に展開された黒いフィールド……。あれは本来、プラネットシリーズ同士のデュエルで展開されるフィールドだ。プラネットシリーズをどちらかのプレイヤーが・・・・・

「つまり、プラネットシリーズとのデュエルの時は必ずから分かるつてことか?」

……そんなにたくさんの人とデュエルしないといけないのかよ。随分大変なことで。

・・・・・せりか、デュエルに勝てばそのプラネットシリーズはお金の手元に行く。強引な手段を使わなくともよい。・・・・・まあ、そりじゃなきゃなあ……。

・・・・・どうある?・・・・・

「いいぜ。プラネットシリーズ集めるの手伝ってやる。」

・・・・・わかつた。急がなくてもよいぞ。・・・・・

さあ、今日は新しいデッキでも創るかな。

次の日

8：10

「やばい、昨日1時までテッキ組んでたから……。遅刻だあ～～！」

授業は8：30に始まる。俺はテッキは持っていくが、教科書などを碌に持つていっていないといつ、何がしたいんだかわからない状態で家を飛び出していった。

8：25

「間に……あつた……。」

起きてから学校に来るのにいつもは30分かかる。それなのに、今日は15分で来れたというのだから、いつもがどんなにだらけているのが分かる。

「おお、達也。どうした、こんなギリギリに。」

話かけてきたコイツは竹下辰哉。よく一緒にデュエルする仲間だ。でも、同じ名前の読みで趣味も同じデュエルだから、間違いやさしい。

「じゃあ、早速デュエルしようぜ。」

「あ？ 残り5分だぞ？」

「いやさ、俺、昨日新しいデッキ創つたんだよ。」

俺と同じじゃないか。だから紛らわしいんだよ、コイツは。

「デュエル！」

「え？」

『氣づくとデュエルフィールドが展開されていた。』

「『『『がんばれよ～～～。』』』

皆もノッてはやしたてる。

「アンタたちもバカねえ。」

「ううう、『コイツは大林あかり。小学校からの友達だ。』

「お前には、バカって言われたくない！ おまえ一回も成績で勝ったことないだろ！」

「うううわね！ 時間ないわよ！」

「ちつ。デュエル！」

宣言が遅れたが、デュエルが開始した。

プラネットシリーズとはー? (後書き)

プラネットシリーズお互い一枚しか入つてないはずなのに、プラネットシリーズをどちらかが出さないと駄目だといつ……。見苦しいかもしません。

虫の恐怖ー（前書き）

なんか、タイトルでこうこうネタバレしてそうですね。

虫の恐怖！

「まずは、俺のターン。ドロー。」

「この手札なら……。」

「俺はカードを一枚セットして、ターンエンドだ。」

「俺が伏せたカードは神の警告。大抵のモンスターならこれで止められる。」

「俺のターン。ドロー。」

「辰哉の口元が笑つたように見える。ビービーテックなんだ？」

「俺は手札から、サイクロン発動！ 達也のセットカードを破壊する！ さらに、手札から魔法発動。おろかな埋葬。デッキから昆虫装機ホーネットを墓地に送る。」

昆虫装機か！ ORDER OF CHAOSで登場したカテゴリ。毎ターン4ずつアドバンテージをとつていつたり、ソリティアをしたりすることで有名な凶悪デッキ。辰哉のデッキがソリティア型なら、口元が笑つたことからもこのターンに1ターンキルされるかもしれない。

「俺は、昆虫装機ダンセルを召喚。さらに、ダンセルの効果発動、墓地からホーネットを装備カード扱いとして装備する。さらに、手札から甲虫装機ギガマンティスをダンセルに装備する。ギガマンティスを装備したダンセルの攻撃力は2400となる。」

……それで、ホーネットの効果で、ギガマンティスを破壊して、モンスターを大量展開し、また装備の繰り返しか。もう説明聞くの嫌なんだが。

「ホーネットの効果発動！このカードを墓地へ送り、フィールド上のカードを一枚破壊する！俺は、ギガマンティスを破壊！」

なぜ、自分のカードを破壊したのかというと、ダンセルには装備されたカードが墓地へ送られた時、デッキから甲虫装機を特殊召喚する効果があるからだ。この場合墓地へ送られたカードは一枚のため、二体の甲虫装機を特殊召喚できる。

「さりに、ダンセルの効果によりデッキからもう一体のダンセルと甲虫装機センチピードを特殊召喚する！今特殊召喚したダンセルの効果を発動し、ギガマンティスを装備、センチピードの効果を発動し、ホーネットを装備する！」

WOW！まあ、こうなるよな……。

「ギガマンティスを装備したダンセルの攻撃力は2400！手札から、このダンセルに明鏡止水の心を装備！明鏡止水の心は装備モンスターの攻撃力が1300以上の場合、破壊される！」

明鏡止水の心まで手札に持つてたのかよ。

「ダンセルの効果により、デッキからギガマンティスを特殊召喚する。そして、ホーネットの効果により、装備カード状態のギガマンティスを破壊する。ダンセルの効果により、デッキからギガマンティスを特殊召喚し、センチピードの効果により、デッキからダンセ

ルを手札に加える。」

センチピードの効果は装備カードが墓地へ送られた場合、デッキから甲虫装機を手札に加えることができる。

「あれ？俺、さつきからずっと見てるだけの気がするけどいいのかな？大丈夫なのかな？」

そんな心配をしていながら、周りがざわついていることに気づいた。ん？攻撃力の合計は……？

ダンセル1000 + センチピード1600 + ダンセル1000 + ギガマンテイス2400 + ギガマンテイス2400 = 8400

……やばい。

「いやぞ、全員でダイレク…………あれ？先生どうしたんですか？」

「…………おまえら…………全員席に着け。」

その後、俺らが50分ずっと怒られたことは言つまでもない。

学校終了

「じゃあ、これからこつものな。」

「ああ。」

「こつもの、ところのは俺達がいつも学校が終わったら行っている力
ーデザップの」とだ。

「ふう、アンタたちのせいで今日も怒られたじゃない。……。」

「お前だつてはやしたてただろ。」

「辰哉に一ターンキルされそうになつたのにそんな偉そうなこと言
えるの?...?」

「.....くそつーあれば、辰哉が一キルデッキだと思わなかつたから
だよ、それに、俺の手札に冥府の使者 ゴーズがいたらどうすんだ
よ。」

「一番最初に『ゴーズのことを言わなかつたのは、ゴーズは手札ありませんでしたと言つてゐるようなものよ。じゃあ、わたしはここで。また後でね～～～。」

最後のフワフワせた声が気に障る。

・・・・・達也。・・・・・

「ん？ ああ、ＳＵＺＵか。どうした。プラネットシリーズ使いでも見つかつたか？」

・・・・・そうだ。・・・・・

「マジで！？」

早つ！

「で、だれだ？」

・・・・・お前が今日デュエルをした竹下辰哉といつ奴だ。・・・・・

「えつ……。」

・・・・・お前はこれからそこいつと会つのだろう。人のいない場所に呼び出しつ、デュエルしろ。・・・・・

「ちよつと待てつて…どうして分かつた？」

・・・・・そいつが男に怒られた時、テッキを落としだろう。その時、プラネットシリーズが見えた。The tripping MERCURYというカードだ。あれはあまり強くない。手始めにちょうどいいだらう。・・・・

「The tripping MERCURYか。……わかつた。」

カードショップ

「よつー達也ー！」

「まだ、あかりは来てないか……。」

「どうした？」

「いや、なんでもない。なあ、お前、プラネットシリーズって知つ

てるか？」

できれば、SUNの言葉が嘘であつてほしい。そんな言葉だつた。

「ん？これのことか？」

そうやつて差し出してきたのは、The trip to ME R C U R Y

「さうか、わかつた、ここじゃなんだしあつとあつちでトュエル
しようぜ。」

「えつ、ちよつ、いつもはここだ……」

「なあ、この本当にアーティルしないといけないのか？」

・・・・・なぜ、そう沈んでいる？プラネットシリーズを持つているからとこつても、精霊の声が聞こえなければプラネットシリーズを集めることはないだろう。それに、持つているからとこつて悪い人間になるわけでもない。・・・・・

「つーそつか。そうだよな。」

勘違いをしていたみたいだ。NOや闇のカードとかのことを考えすぎていた。

「なあ辰哉。俺、今プラネットシリーズを集めているんだ。だから、

俺が勝つたらそのカード譲ってくれないか？俺もプラネットシリーズ持ってるから、俺が負けたらそれをあげるよ。」

・・・・・おい、待て。プラネットシリーズを持っているなどとプラネットシリーズの前で言つたら警戒するのが当たり前だつ！・・・

「え？」

気づけば、辰哉のまわりに黒いオーラができている。

「やばい！」

デュエルだ！The trippin' MERCURY！

虫の恐怖！（後書き）

昆虫装機強いですよね。僕の友達にも使っている人がいます。何回か召喚を止められれば勝てるのですが……。

初のプラネットシリーズを賭けたテュエル！（前書き）

なにかが違う……

初のプラネットシリーズを賭けたデュエル！

・・・・・奴のまわりの黒いオーラ……。すでに、自我を失つていて、MERCURYのものになつていてるだらうな……。・・・・・

「くそつー俺が引き起こしたとは言え、危ないカードじゃないかよ！」

「達也……。始めよ!」

「決闘!!」

「私のターン……。ドロー。」

辰哉のデッキは、朝と同じ昆虫装機のはず。俺のデッキの相性は普通だ。

「私は終末の騎士を召喚……。デッキから、昆虫装機ホーネットを墓地へ送る。そして、カードを4枚セットしてターンエンドだ。」

4枚のセットカード!? 辰哉、家で急いでデッキタイプを変えたな！？おそらく、スターライト・ロードでも伏せてあるのだろうが……。でも、使うか。

「俺のターン。ドロー。手札から魔法发动。大嵐。全ての魔法・罠を破壊する！」

「チーンして罠发动……。スターライト・ロード。大嵐を無効にし、スクストラデッキからスターダスト・ドラゴンを特殊召喚する。

「

やつぱりあった……。そして、白銀に光る輝かしい竜が特殊召喚される。

「まだだ…さらば、魔法発動。サイクロン。一番右のセットカードを破壊する…」

奈落の落とし穴

危ない危ない。

「モンスター一体をセットして、カードを一枚伏せる。ターンエンド。」

辰哉（MERCURY）

8000 手札一枚

終末の騎士 スターダスト・ドラゴン セットカード一枚

達也

8000 手札一枚

セットモンスター一体 セットカード一枚

「私のターン……。ドロー。」

お互い最初のターンで手札をかなり消費している。動いて止められたらそのターンは終わりだらう。

「私は、昆虫装機センチピードを召喚、そして効果発「ちょっと待つた！罠発動。奈落の落とし穴。センチピードを除外する」……。 そうか、ならば、スターダスト・ドラゴンでセシトモンスターに攻撃。」

スターダスト・ドラゴンの口から、吐き出された白い光線がセシトモンスターを貫く。

ヴェルズ・フレイス

「だが、ヴェルズ・フレイスの効果は発動する。スターダスト・ドラゴンを手札に、つまり、エクストラデッキに戻す！」

「私は終末の騎士でダイレクトアタック……。」

今度は騎士が、剣を俺に刺してきた。

「……ぐつー！」

「私はこれでターンエンド……。」

ライフポイントの差は1400だけ。次のターンで出せば貰うぜ。

「待った！ エンドフェイズ時に魔法発動。終焉の焰。黒焰トークン二体を特殊召喚！」

「そして、俺のターン。ドロー。」

おそらく、残りのセットカードの内、一枚はブラフとみていいだろう。警戒すべきはもう一枚か。

「俺は一体の黒焰トーケンをリリースし、現れよ、The sun
remasy SUN!!!」

太陽が影に隠れ、その中から禍々しい悪魔が降臨する。デュエルティスクの演出とはいえ、凄いものは凄い。さらに、俺がSUNを出したことに共鳴するように辰哉のデュエルティスクが光だし、SUNとデュエルした時にも出た、黒いフィールドが展開された。

・・・・・フフフフフ・・・・・

あれは、MERCURYの声か？まあ、いい。デュエルで勝てば分かることだ！

「俺は、SUNで終末の騎士に攻撃！」

ダーク・グレファーーや、堕天使アスマティウスを飲み込んだ黒い光線が今度は、終末の騎士へ向けて発射される。

「罠発動……。魔法の筒。攻撃を無効にし、攻撃力分のダメージを相手に与える。」

「何だつて！？」

SUNの攻撃力は3000。つまり、3000ポイントの大ダメージを俺は受けことになる。

SUNの黒い光線が筒の中に入り、今度は俺にとんでくる。

「つーーーー！」

気付いた時には、俺は壁に叩き付けられていた。

「くそつ……。俺はカードを一枚セットしてターン 반드。」

辰哉（MERCURY）

8000 手札一枚

終末の騎士 セットカード一枚

達也

3600 手札無し

SUN セットカード一枚

「私のターン……。ドロー。」

「私はリビングデッドの呼び声を発動……。墓地からホーネットを特殊召喚する。さらに、レベル4以下のモンスターが特殊召喚に成功した時、手札からTG・ワーウルフを特殊召喚。」

TG！？まさか、まだ代行天使は見えていないが、あれはTG代行インゼクターなのか？

「私はこの三体をリリースし……降臨せよ！The tripoli ng MERCURY！！」

初のプラネットシリーズを賭けたテュエル！（後書き）

結構時間がかかりました。主人公のティッキは今回、ヴェルズでした
が、手札が少ないため、次回も活躍できそうにありません。でも、
活躍する機会はつくります！

後、すいません。ヴェルズには終焉の焰なんて入らないと思うんですけど、ソコノを一枚でだせて、しかも、攻撃も防げて、ゾンビキヤリアとシンクロもできるから、とさまざまな理由をつけて入れました。

そして、問題の魔法の筒ですね。今はバーンティッキぐらいでしか採用されてないという……。言い訳はしません、いや、できません。しかも、TG代行インゼクターがかなり事故つてます。

The tripping MERCURY (前書き)

MERCURY戦の続きです。

The tripping MERCURY

MERCURY召喚の宣言と共に、フィールドに二つの剣を持つ、虫の女王が現れた。

The tripping MERCURY
レベル8 攻撃力20000／守備力2000

「MERCURYの効果発動……。MERCURYはアドバンス召喚に使用したモンスターの数によって、効果が変わる。」

リリースしたモンスターは三体。一体リリースより強力な効果なのだろう。

「三対リリースの場合、このモンスター以外のモンスターの攻撃力は0になる……。」

「つ！」

「私はこれでターンエンド……。」

MERCURYで攻撃しなかったのは、攻撃すれば、次のターンSUNは復活しMERCURYはそのまま戦闘破壊される。しかし、攻撃しなければSUNの攻撃力は0のままで、3000に戻すためにはSUNから攻撃しなければならず、攻撃される回数が一回減るからだわ。

「俺のターン。ドロー。」

つー。これなら、賭けにでることができる！成功確率は50%ぐらいか。ダンセルとセンチピードさえ引かれなければ……

「俺は、ＳＵＮを守備表示に変更。ターンエンドだ。」

辰哉（MERCURY）

8000 手札無し

MERCURY リビングデッキの呼び声

達也

3600 手札一枚

SUN

「IJの程度か……。私のターン……。ドロー。」

「ほう……。私はMERCURYを守備表示にしてターンエンド。」

よじつ！-!ける-!

「俺のターン-ドロー-！」

「俺はレスキューラビットを召喚！レスキューラビットの効果発動、デッキからヴェルズ・ヘリオロープ二体を特殊召喚！」

「一体の同じレベルのモンスターか……。」

「一体のヴェルズ・ヘリオロープでオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！ヴェルズ・バハムート！」

氷結界の龍ブリューナクを闇化させたようなモンスターが召喚される。

「ヴェルズ・バハムートの効果発動！ エクシーズ素材ひとつを取り除き、手札のヴェルズ一枚捨てるにより、相手フィールド上の表側表示モンスター一体のコントロールを得る！ 僕はヴェルズ・マンドラゴを捨て、MERCURYを選択！」

「何つ……？」

MERCURYがSUNの援護もあって、俺のフィールドに来る。すると、辰哉に付いていた黒いオーラが消え、SUNに吸収された。

「……あれ？ 達也、どうしてこんな所でデュエルしてるんだよ？」

流石に、「辰哉はカードにとりつかれていたんだっ！！！」なんて言つと変な目で見られることは確定なので、適当に誤魔化しておく。プラネットシリーズを賭けたことは忘れずに言つたが。

「ふうん。まあ、いいか。負けそしだけど、そのカードの使い道分かんなかつたし。」

「じゃ、続けるぜ。MERCURYとバハムートで、辰哉にダイレクトアタック！」

MERCURYはその二つの剣で、バハムートは氷の混じった黒いビームで辰哉に攻撃した。

「俺は、ターンエンドだ。」

とりあえずは安心だ。

辰哉

3650 手札一枚
フィールド無し

達也

3600 手札無し
SUN バハムート MERCURY

「俺のターン！ドロー！ちえつ、サレンダーだ。手札がマスター・ヒュペリオンとサイクロンじゃ勝てないよ。」

ふう、勝てた。

家

あの後、あかりが来て他の人とかとも何度もデュエルした。5勝2敗。2敗は、インゼクターだった。

「なあ、ＳＵＺ。お前は、MERCURYが弱いと言っていたけど、結構危なかつたんじゃないか？」

MERCURYが騒いでる気がしたが、既にカードファイルの中なので聞こえない。つか、MERCURYって女だったんだな、辰哉の変わった口調が印象に残りすぎて、男だと思っていた。もう話す機会はないだろうが。

・・・・・そうだな、だがこれで一枚集まつたのは事実だ。この調子で、とでも言つておこう。・・・・・

辰哉が、プラネットシリーズに……。これほどまでに負けるのが怖かったデュエルは無かつた。アニメのＵＭＡはいつも、「デュエルは楽しいものだろ！」と言つていたのに。

プラネットシリーズが惑星の数だけあるとすれば、残り7枚。身近にもいるかもしれない。俺はどんな運命を辿るんだろう。

今日は一日中それを考えていた。

The tripping MERCURY (後書き)

やつと、SICONを除く一枚目のプラネットシリーズが……でも、MERCURYはほつきり言つと弱いです。なので、これから使い分かりません。

OUG化されてないプラネットシリーズのステータスは作品上に載せるこにしました。効果はその後、キャラクターが言つので載せてません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4844z/>

遊戯王～プラネットシリーズと共に～

2011年12月19日15時49分発行